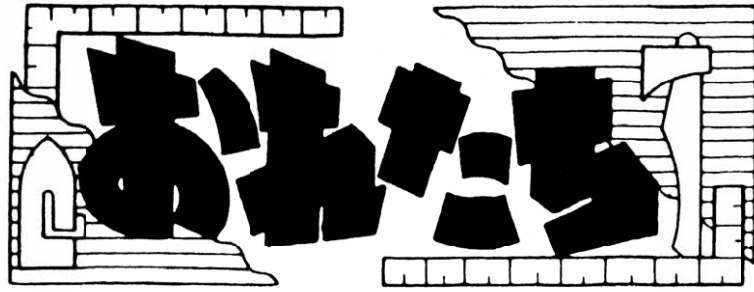


無料法律相談日の案内
 8月23日(金)14時~16時
 希望者は前日までに予約を
 ~~~~~  
 8月当初組合員数 = 1991人(-12人)  
 ~~~~~



発行所
 東京土建一般労働組合荒川支部
 東京都荒川区荒川6-3-1
 TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
 発行者・津田宗久 / 編集長・薄井章
<http://www.doken-arakawa.org/>

荒川元気クラブ 河内区議インタビュー取材 介護保険制度のこれから

【取材者】小野澤富彦記者・川又好一記者「最近、身の回りで特に感じる事は、一人暮らしや、高齢者夫婦が増えている事です。そして、介護のお世話になっている方の多いことにも気が付きます。そこで、私達にもいざれ訪れる介護の問題を、医療・介護の現場で35年働いて来た、専門家の荒川区議会議員の河内ひとみさんより区本庁舎議員図書でお話を伺いました。

戦後の社会保障制度の中で社会福祉、介護施策が変遷し、もともと低所得対象として公費で賄っていた制度に変化が表れました。

昭和45年に65歳以上の人口比率が7%を超え高齢化社会と言われ始めました。昭和49年オイルショックにより、初めてのマイナス成長に直面し、社会保障の見直しが始まりました。

日本型福祉を支えてきた家族の形態の変化(核家族化)・女性の職場進出の増大・貧困な住宅事情・介護の困難性・少子化問題、介護の高齢化による老老介護から介護離職問題までも生じました。

現在、荒川区での高齢化率は、23.2%、要支援・要介護者は5月31日時点で9501人となり、そこで社会全体で支える仕組みづくりとして、平成12年4月1日に介護保険制度がスタートしました。

これからの介護保険 たいへんですよ

人材不足で訪問介護(ヘルパー)が減少しています。これによりサービスを受けたくても受けられない介護難民が増えます。

時給アップが望めないパートヘルパー、正社員でも低賃金で家族を養えない、結婚も出来ない、介護の現場で働くための養成学校は定員割れし、外国人労働者では施設勤務のみで在宅介護が法律上出来ない労働環境となつています。

取材に応える河内区議



細かい要望が多い人や対応が困難な利用者は、介護事業者から断られるようになり、『選ぶ時代から選ばれる時代』になりつつあります。

公営のデイサービスは統廃合が廃止へ。施設・病院が入院患者を受け入れて一番もつかるのが2週間以内の退院で、3ヶ月以上は赤字になってしまいます。その受け皿として、医療行為がある利用者には介護療養型医療施設があります。厚生労働省は2024年3月までの療養型施設を廃止し、介護医療院へのシフトを目標としています。

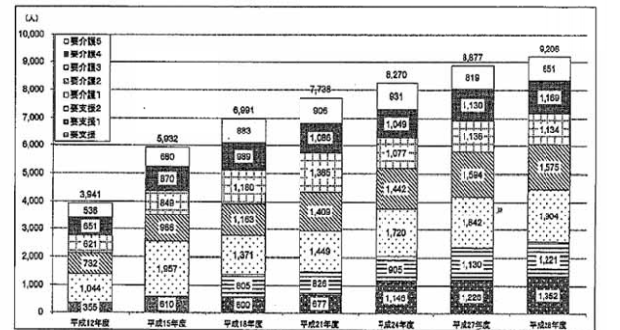
施設サービスが利用できても、介護保険改正によって今や利用料の1・3割負担の他に、居住費+食費+日常生活費が自己負担になります。大部屋の部屋代(居住費)はショートステイでも特養入所でも一番安く1日に840円が掛かかります。老人保健施設・介護療養型医療施設・介護医療院でも370円が掛かります。昔はなかった利用者負担がこれだけ増えている現状を見ると、消費税が介護には使われていないのと同じではないでしょうか。

今後自分たちの老後をどう過ごすのか、自分が元気になるうちに意思表示をしないと、介護する家族も大変になります。いっどこで病気になるか、あるいは家族が病気になるって介護する立場になるかわかりません。介護離職も他人事ではありません。仕事と介護を両立するためのポイントは、一人で悩まない、介護保険を上手に利用する、将来に備えて、自分や家族が要介護状態や、がんなどの終末期に備えて、意思表示しておくこと、最も大事なことは予防です。病気になるために食

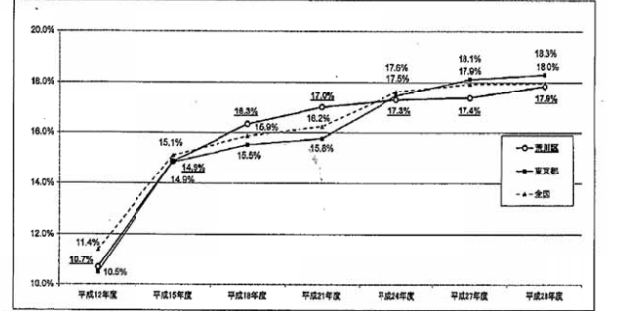
第2節 要介護(要支援)認定者の現状

- 1 要介護(要支援)認定者数・率の推移
- 要介護(要支援)認定者数の推移をみると、介護保険制度が始まった平成12年度から増加傾向で推移し、平成28年度末時点で9,206人となっています。
- 第1号被保険者に占める要介護(要支援)認定者数の割合は、平成18年度以降、全国的に緩やかに増加する中で、区の認定率は国、都を上回る状態で推移していましたが、平成24年度以降は国、都を下回っています。

◆ 要介護(要支援)認定者数の推移



◆ 要介護(要支援)認定率の推移



※各年度3月31日現在
 ※資料:厚生労働省(HPより)、荒川区「介護保険事業状況報告書」

理想の形で最期を迎える難しさ

療院でも370円が掛かります。昔はなかった利用者負担がこれだけ増えている現状を見ると、消費税が介護には使われていないのと同じではないでしょうか。

生活の見直しや、筋力低下防止のための運動習慣を身につけ、身体が弱つたら早目に相談することです。また、自覚症状がない認知症の予防のための無料相談を受けましょう。病気になるつたり、要介護状態となれば多額の費用を要し、貯金も必要です。

国保育成・協力要請 都議会議員要請行動

【藤川直樹】社保対部 土建国保への都費補助につきましては7月24日慶野長一都議会議員(公明党)の事務所を訪ね、土建国保への都費補助の賛同署名をお願いします。

慶野氏は早くその場で署名して頂きました。頂いた賛同署名は、10月に福祉保健局交渉の際に提出されます。



「藤川直樹」社保対部 土建国保への都費補助につきましては7月24日慶野長一都議会議員(公明党)の事務所を訪ね、土建国保への都費補助の賛同署名をお願いします。

地域との結びつきが大切

南千住分会住宅デー

参加者 23人
包丁 38丁
はさみ 5丁
網戸 10枚



(左)住宅相談受付 (右)健診受付の様子

【南千住「竹達浩記者」】7月7日は七夕であり、また南千住分会の汐入地区住宅デーの開催日でもあり、好天が望まれたのですが当日は、朝から小雨の降り続く梅雨寒の一日でした。小雨の降る中、朝8時半に南千住八丁目花みず木通り「居酒屋とうちゃん」前に、集合して会場の設営をいたしました。今年も汐入住宅デーは地域医療機関の汐入診療所の協力を得て開催されました。

会場の「居酒屋とうちゃん」は、南千住8丁目花みず木通り中央の都営住宅1階にあります。店の前は広くなっている受付のテントを張るには充分です。また、建物集合住宅であるために、出幅が4メートルほどの上階からの落下物防止ネットがあるので、その上にブルーシートを張

ることで、雨天も暑い日差しもしのぐことができそうです。住宅デーの会場としては大変条件の整った場所です。

たけし田

小雨は降り続けているが、宣伝カーも住宅デーの広報に発車し、診療所からも2人の方が参加され準備が整い、各員が担当部署について来客を待ちました。私たちは天気の良いので、客足も鈍るのではないかと心配でしたが、心配が無用、間もなく包丁を持って客が来ました。汐入住宅デーも回を重ねるごとに、地域に浸透している様子が見えるような気がしました。また、汐入診

これからはどうする

汐入地域の住民構成は、もともと汐入に住んでいた人は極めて少ないようです。団塊の世代で住みはじめた人も今は後期高齢者です。現在活躍している人はその人の子供または孫です。

汐入の特徴的なことは、学童と保育園の多いことです。そのような地域状況とは何かと、問われていることを自覚し創意工夫をして営むことが求められる。

「葵と楓」が登場

葛飾支部 建長会 結成15周年記念式典に参加



大勢の参加で賑わう様子

【日暮里1「川又好一記者」】東京土建葛飾支部主催、建長会(けんちんしょうかい)結成15周年記念式典に6月22日、荒川支部荒友会から濱田和男さん、小川隆志さん、川又好一の3人が出席しました。会場のテクノプラザかつしかには、東部ブロックの足立支部、台東支部、文京支部、荒川支部、主催である葛飾支部、本部から担当役員が参加し、各代表者の15周年祝辞が行われました。葛飾支部建長会には、544人が加入していて、58人の組合員さんが参加しました。



早期解決を訴える様子

アスベスト訴訟

生きていくうちに救済を 神奈川2陣第2回期日行動

【荒川「磯部正三記者」】7月8日、この日はエレベーター工事、電気工事、保温工の被害者の証人尋問が行われま

した。エレベーター工事、電気工事では証人がアスベスト含有状況を証言し、保温工事では二チアス側の作業時の状況について証言されました。それについて原告側が反対尋問を行いました。支援団体は高裁前で支援

集会を行い、衆議院第一大会議室で院内集会を行いました。原告団決意表明では東京2陣の共同代表である吉田重男さんが「年々、原告が減っています。遺族原告団になりつつあります。原告が生きている内に、国と企業は和解に応じるべきだ」と訴えました。

建設アスベスト訴訟全国連絡会の清水謙一事務局長は「アスベスト被害は今も続いている。それを社会と政治に訴えるために、今年中に3陣の訴訟を準備している」と訴えました。

新聞づくり学習会・『分会ニュースづくり』

【町屋南「薄井章記者」】7月21日、荒川支部会館で新聞づくり学習会が16人の参加で行われました。

講師は本部の教宣担当鈴木康弘書記により行われ、記事の書き方、レイアウト、分会新聞の役割について講義を頂いた後、新聞づくりの実践となりました。

近年、どの支部も分会新聞の発行が停滞していると

ころが多く、荒川支部もその中に入ります。分会ニュースは分会の組織の繋がりを強めるためには必要不可欠です。顔が見えないからこそ発行する必要があります。



(上)学習の様子(下)レディースも参加

午後3時過ぎに参加者で作った新聞の総評を鈴木書記が行いました。今日の経験を踏まえ、分会新聞が最低年2回発行できるように教宣部も要請していただく。皆さん協力をお願いします。



葵と楓

参加者全員の記念撮影も行われ、閉会の挨拶で終了しました。『記念誌15年間の歩み』を頂き、皆さん楽しく参加している事を感じ取れました。荒川支部ももうすぐ9月から拡大があるので荒友会も盛大に記念式典ができるように頑張ります。皆さん協力おねがいします。

ひぐらし

第二十五回参議院選が7月21日投票開票された。与党の自民、公明が改選過半数(63議席)を得た。安倍首相はテレビ番組で「国民は安定した基盤の下に政策を進め、国益を守るよう判断した」と強調した。今回の選挙で自民党は240万票減らし、公明党は100万票減らし、自公は3回連続で減少している。共産党も150万票減らしている。既成政党はこの現実をどう見ているのか。4月に山本太郎参院議員が代表で立ち上げた政治団体「新しい新撰組」は比例代表で228万票をとり、政党要件を満たした。無党派と既成政党にあきれた方々が、投票したのではないかと懸念します。立民が791万票、国民が348万票合計で1139万票。分裂する前の民主は1175万票取っている。36万票減っている。自公の取った投票数とはまるで違う「れいわ新撰組」が立てた候補者、特定枠の一位には筋萎性側索硬化症(ALS)患者の船後靖彦さん、同じく二位で重度障害がある木村英子さんが当選した。車いすの国會議員として活動した、八代英太さんを思い出し、今回の参議院選挙で比例ポスターを当社前に張ってありましたが、「れいわ新撰組」のポスター前で足を止めた方は期間中で100人はいました。(虎)

国民平和進行

核兵器はいらない
原水爆禁止世界大会へむけて



台東区入谷南公園に向かう平和行進

【荒川＝磯部正三記者】
「核兵器はいらない」原水爆禁止世界大会の成功の為、今年も5月6日から全国11コースに分かれて、全国各地を行進しています。

被爆者の体験と原水爆禁止の国民的運動が世界を平和へと動かしてきました。今年の平和行進では、20年に向かつて、「核兵器全面禁止・廃絶を」の声を被爆者とともに全国に広げ、「日本政府は禁止条約に調印を」と訴えます。

荒川区内には、北海道根室市を出発した丸宗市（まる・そういち）さん（69歳）が太平洋コースを行進して7月26日に荒川区役所前公園に到着しました。北海道から荒川まで82日間に及ぶ行進の中で、「今日が一番暑い」と笑顔で語りました。

日本共産党小林区議による趣旨説明があり、東京土割に引き上げようとしています。自己負担2割にするこ

とによる19年度の国費の削減は170億円です。この数字と対比して考えられる数字は、自民党が今年手にした政党助成金174億7300万円です。

政党助成金とは国民一人に250円を乗じたもので、制定されてから24年になります。

累積金額は7586億円になり、あと7・8年で1兆円は超えるでしょう。 つづく

建などの区内民主団体の仲間約60人が丸さんを先頭に台東区の入谷南公園に向かい行進を始めました。

沿道からの「がんばれ」の言葉や、手を振ってくれる人々に励まされて炎天下での行進です。

丸さんは韓国の女子大生と日本の友人2人と一緒に「ノーモア広島、ノーモア長崎」と元氣よくシュプレヒコールを行いながら、行進しました。天気に恵まれ行進者全員が欠けることなく台東区の仲間にあすきを託しました。

北海道太平洋コースの「通し行進者」の丸さんは、終着地である上野公園に向かつて力強く平和行進を続けました。

荒川市民アクション



荒川支部会館前で訴える様子

【西尾久「小野澤富彦記者」】
7月9日、荒川市民アクションが千代田線町屋駅3番出口前で宣伝行動を行いました。

第二次世界大戦以降から現在まで日本が戦争の危険に晒されていなのは、憲法9条があるからです。9条がなければ日本は戦争に巻き込まれ、テロの標的になっていくかもしれません。「憲法9条に基づく対話中心の平和外交こそが、必要不可欠です」とチラシ、ティッシュを配布しながらハンドマイクで強く訴えました。参加を待ちしています。

後継者懇親会

仲間と飲むのが楽しい
参加お待ちしています

【後継者対策部発】皆様、猛暑の中でのお仕事お疲れ様です。後継者対策部の部長の大橋（事業所分）

6月22日（土）に30～50代の仲間と暑気払い・懇親会を行いました。今回は京成・新三河島駅から、徒歩1分の「アジア食堂」でを行いました。



人気企画で満席に！

「アジア食堂」は、本場のシエフが作る本格的なカレーやナン、スパイシー系



同世代で話が弾みます

の甘辛チキン、フォー、カレーラーメン、エビレタスチャーハンなど何を食べても美味しく、夜はお酒も吞めて、しかも全体的にお値段がとてもしリーズナブル、シャイで少し無口な日本人の店長（笑）がいるお店です。土建カードを見せるとアイスやドリンクのサービスが受けられます。参加人数は全体で津田支

仲間の作品紹介

【編集部】今回は荒川分会に所属の花鳥三三さんの長女である川野・美鳳（かわのびほう）さん。本名・国枝（くにえ）さんの作品が第36回産経国際書展で現代書部門で外務大臣賞を受賞されましたのでその作品を掲載しました。

産経国際書展は、産経新聞社と産経国際書会が主催する書の公募展です。日展、毎日書道展、読売書法展と並ぶ「書の四大展」の一つです。書芸術の交流を通じて国際親善の輪を広げ、書技、創作活動の向上、発展を目指しています。1984年に第1回が開催され、全国の書家のほか、国外からの出品も多い（フランス、中国、アメリカなど）。各部門で9千点近い応募があります。各賞はその後、東京都美術館などで展示されます。

外務大臣賞 川野美鳳



部長、担当役員、書記も含め27人、初参加は4人でした。

座席は普段なかなか話す機会のない方との交流を図るため、クジ引きで決めました。

懇親会では冒頭に総合経済の簡単な勉強会を行いました。料理はコース料理、飲み物は飲み放題で、食べきれないほどの様々な美味しい料理が次々に出てきました。

今回は貸し切りとなったため、自由に席を移動しな

がら色んな方々と話をすることもできました。ご参加いただいた皆さんには、とても楽しんでいただけたいと思います。

今後の後継者世代の交流企画は11月頃に練馬区の「としまえん」でバーベキューを予定しています。

今後の建設業界を支える30～50代の為に様々なイベントを実施して、新しい仲間作りを積極的に行っていきたいと思っています。ご協力よろしくお願ひ致します。



参議院議員選挙もおわり参議院も新しい構成になったが、政権与党を過半数割れに追い込むことができなかった。自公政権は両院で過半数を維持し、法案を十分

な審議もしないで数の力で採決していくでしょう。直近の問題として、10月から消費税10%への増税です。また安倍政権は、社会保障増大のため経済環境の整備を集中的に歳出改革を進めるとしています。その狙い上がったのが社会保障面では、「後期高齢者医療制度」です。

「後期高齢者医療制度」では窓口での自己負担は、原則1割となっていて1兆円は超えるでしょう。 つづく

南千住分会

屋形船で夜景とカラオケ

【南千住竹達浩記者】

「野崎参りは屋形船で参る」と、東海林太郎の野崎小唄ではありませんが、久々の南千住分会レクリエーションが、7月21日、屋形船「入舟」の船内で開催されました。

当日は支部で「新聞作り学習会」がありました。新聞作りが、出帆が5時でしたので時間的にはゆとりがありました。船が動き出しました。



夜景を撮るのを忘れるほど盛り上がりました

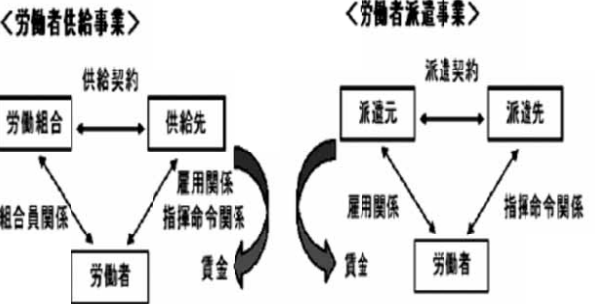


23人の参加で盛り上がりました

船はゆっくりと川を下り、移り行く風景を見ながら美味しい料理に舌鼓、楽しい談笑の一時が流れました。お台場近くまで来て船は旋回して帰路に付きましました。本番のカラオケです。

出帆から帰帆までの2時間半の楽しいひと時。酒も料理も格別においしかったです。その陰にはこの船を30年前から知っていて、交渉役を務めた早川さんの労に感謝いたします。

労働者供給事業 仮登録の呼びかけ



12万人の建設従事者を組織している東京土建では、建設産業の民主化を展望するに当たり、労働協約の実現を目指しています。今年より労働者供給事業（以下、事業）を始めました。この事業は、技能のある働き手の求職にこたえる職場づくりとして、労働組合が賃金単価契約を主導できる重要な取り組みです。供給元が労働組合等で、ここには雇用契約は

なく、派遣の場合は、供給元は派遣企業で、ここには雇用契約が存在しません。つまり、供給事業で供給されるみなさんは、供給先企業との雇用契約を結ぶこととなります（図参照）。

この事業では登録が必要で、登録できる職種は、当面は大工職のみで、一人親方や事業所に属していない職人になります。労働条件は日額2万円で交通費は別途清算条件です。

その後、供給先企業が本部に依頼し、本部が現場のある対象エリアの組合員にメールで一斉配信します。現場に行ける組合員は所属支部に連絡をします。供給先事業所は組合員に給料・期間・作業内容を電話で確認。就労初日に現場で事業所と組合員は雇用契約を結びます。興味のある方は仮登録を行い、本部の説明会にご参加下さい。

今月の1枚 あらかわ佐渡おけさ祭り

今回は東尾久2分会に所属の吉田敬子さんより寄稿を頂きました。毎年、本部主催の仲間の作品コンクールに写真を応募してくれています。今回はあら



あらかわ佐渡おけさ祭りは人が集まり関わり合う文化的・商業的な空間の創造、人々の内に感動が生まれるきっかけとなることをテーマに、2012年、13年と開催したものが「佐渡おけさパレード」となりました。荒川区が佐渡市と友好都市を結んだことを記念し、新たに「あらかわ佐渡おけさ祭り」として開催されました。多くの方々が来場し、伝統舞踊に触れ、体験コーナーや鬼太鼓や和太鼓の演奏、物産展や屋台の出店などを楽しみ、好評を博しています。佐渡おけさ祭りは、冠新道商店街（東京都荒川区西日暮里6丁目）で毎年開催しています。荒川区にお住いの組合員の皆様もぜひ一度ごらんになってみてはいかがでしょうか。

仲間の横顔



五箇谷 京子 (荒川分会)

51



大会でトロフィーも貰いました

【取材・並木義男 記者「荒川分会」】

江東区亀戸で学生時代を過ごしました。高校生の時、アルバイト先の友人の紹介で会った人が、後の主人でした。その時はまさかこの人と結婚するとは思わなかったと言います。24歳の時に結婚して荒川区の住民になり、学生の時からバレーボールをしていたので、子どもが小学卒業するまで九峽小のママさんバレーを続けて大会にも出場していました。

子どもの小学校卒業を機にビーチバレーに変更して四峽小学校にご主人の会の行事に大勢の人に参加をしてみようには、どうしたら良いのか、主婦の会未加入の人に入会して頂くには、課題が沢山あります。主婦の会の役員さんと楽しい主婦の会作り頑張りますので組合員の皆さんのご協力をお願いいたします。